

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	商店街（代表者）	・日本人観光客が堅調に推移しており、外国人観光客も引き続き好調に推移している。日本人観光客と外国人観光客の両輪で観光客が動いていることはとても有り難い。2～3か月先のホテルの予約状況も好調なことから、今後は期待できる。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・お盆が終わってから売上にブレーキが掛かっているが、これは例年のことである。今後に悪影響を及ぼすような動きもみられないことから、景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・人流がコロナ禍前の状態に回復してきており、こうした傾向は今後しばらく続くことになる。
	○	スーパー（店長）	・外出需要、インバウンド需要は今後も続くと思われるため、アウター商材や旅行用品、化粧品、医薬品などの伸びが見込める。
	○	スーパー（店長）	・当店の認知度が高まっていることで来客数が増えている。また、値上げが進むなか、客単価もそれに伴って上昇していることから、今後の景気は良くなる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・インフレが進むことで日本経済が良い方向に進むとみられるため、今後については徐々に恩恵を受けるようになると期待している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・現状、来客数は減っているものの、売値を上げたことで売上を上乗せできている。こうした傾向はまだ数か月は続くと思われるため、景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・10月から冬にかけて新型車が発売されることが明るい材料である。今よりも車種が増えることで来客数も増えると期待できるため、景気が今よりも悪くなることはなく、横ばい又は上向きで推移することになる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・主力車種のモデルチェンジ、数車種の新型車発表を控えていることから、今後の景気はやや良くなる。メーカーの生産状況が改善していることから、受注残となっていた車両の納車も進むことになる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・利益はともかく、売上が増加した8月の状況から、景気は良い方向に進んでいる。今までどおり、地元客を中心に時流や流行に乗り過ぎず、地道な営業を続けていきたい。
	○	タクシー運転手	・当地域において、イベントが切れ間なく実施されていることから、今後も前年より多くの乗降客が見込める。
	○	通信会社（企画担当）	・例年と比べて、客からの問合せや引き合いが少ないものの、毎年秋に発売される人気の通信端末の影響で、今後の需要が増加することを期待している。
	○	観光名所（従業員）	・ここ最近、平日でも土日や祝日並みの観光客数でにぎわうことが多くなっている。特に個人利用の外国人観光客の姿が目立っている。こうした状況は当面続くと思える。
	○	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者が若干増えているが、以前のような自粛傾向は余りみられないため、今後も売上にそれほど影響は生じないまま推移する。
	□	商店街（代表者）	・物価上昇が景気にどのような影響を与えるか分からないため、今後の景気が上向くか、下向くか予想できない。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	・9月に入れば猛暑も多少は落ち着き、客の外出する機会が増えることが期待できる。一方、原子力発電所の処理水の海洋放出で中国や韓国からの反発が強まり、観光客が減少することが懸念される。今後については、良い点と悪い点の両方があることから、全体では8月並みでの推移となる。
	□	百貨店（マネージャー）	・9月から店舗環境が大きく変わるため、先行きは不透明である。
□	スーパー（店長）	・加工食品が数か月前と比べて伸びている。また、酒税法改正の影響で酒の売上が伸びるとみられるほか、野菜の価格高騰や残暑の影響で冷凍食品の売上も伸びるとみられる。一方、生鮮食品については、ここしばらく前年の80～90%を行ったり来たりしている。そのため、今後についても、商品価格の高騰も含めて、同様の傾向で推移することになる。	
□	スーパー（企画担当）	・エネルギーコストが増加しているなか、物価高騰が継続しており、燃料油価格激変緩和補助金や電気・ガス価格激変緩和補助金も9月で終了予定であるものの、生活者は節約と支出のバランスを取っていくとみられる。そのため、現在の活況は維持できることになる。	

<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・消費者の生活防衛が続くが、他社と比べて価格優位性があるため、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（経営者）	・暮らしにくい状況になっているとはいえ、以前とは違い、客の好に合う、必要と思う商品は今後も買っていくとみられる。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（エリア担当）	・依然として客が衝動買いをすることが少なく、今後も必要な商品のみ買う流れは変わらない。ただし、今夏の猛暑対策商品のように必要不可欠な商品が発生し、そのような商品を取り扱っていれば来客数、販売量の増加を見込めることになる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（経営者）	・今後についても、例年並みで推移するとみられる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・8月はエアコンなどがよく売れたが、その分売上が伸びたわけでもなかった。今後、季節らしい気温に戻って暖房機などの需要が高まることを期待している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・長納期化が改善されたこともあり、売上や利益は堅調に推移している。ただし、現在の受注状況や今後の燃料価格の高騰を考えると、年度後半にかけて、高額商品の販売に影響が出てくる懸念される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・当面は受注残があるため、今後も景気は変わらない。新車の長納期化が収まらない限り、客の動きは変わらないとみられる。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	・物価高の影響が長期化しており、購買心理の変化が起こるとは考えにくいことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・客の健康価値観が変化しているなか、参入業者が増えてきていることから、今後も景気は変わらない。不審な業者もみられるため、より正確な情報を発信していくことが必要になってきている。
<input type="checkbox"/>	その他専門店〔造花〕（店長）	・今後については、原材料価格の高騰、配送に係る問題がどのように影響してくるかが不明なため、大きな変動はみられないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・人の動きが活発になって高止まりしている状況であり、この先も大きな変動はなく、高い水準のまま推移することになる。ただし、気温の高い日が続くことが懸念材料である。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（経営者）	・秋冬についても計画どおりの集客状況になっていることから、今後も好調なまま推移する。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（従業員）	・今後も現状の良くない状況が続くことになる。企業などの団体旅行も潤沢な予算がないと実施に至らない状況であり、さらに、宿泊費や貸切バス代の高騰が続くことも見込まれる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・タクシー1台当たりの売上はコロナ禍前の水準を上回るとみられるものの、乗務員不足により、稼働しているタクシーが減っていることから、会社の売上は8月と同じように前年比マイナス20～30%で推移するとみられる。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・今後は過ごしやすい気候になるとみられることから、好調だった日中の利用も例年並みとなる。一方、イベント関係やインバウンドの利用については、例年並みの問合せや予約がみられるため、全体の利用状況は変わらないまま推移する。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・今は回復傾向にあるが、秋から冬にかけて客の動きがどのように変わっていくかを注視している。
<input type="checkbox"/>	通信会社（エリア担当）	・現状が悪すぎるため、これ以上景気が悪くなることは考えにくい。
<input type="checkbox"/>	観光名所（職員）	・ウクライナ情勢、中国による日本産水産物の輸入全面停止といった景気を左右する大きな要因について、収束の見通しが立っていないことから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	・住宅の建築コストの高い状態が続くとみられるため、住宅着工数が増えるとは考えにくい。また、金利が上がり始めていること、都心部の地価が上昇傾向にあることから、今後も厳しい状況が続くことになる。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（経営者）	・短期的には大きな変化はないまま推移する。ただし、現在のインフレ傾向が長期的に続けば、客の購買意欲が少しずつ低下するため、客の所得の上昇幅が早くインフレ率を上回るようになることを期待している。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	・建築コストが下がらず販売単価が高止まりしていることから、客の住宅ローンの借入額が大きくなっている。金利上昇によって必要額の借入れが困難になるおそれもあることから、今後の景気は横ばいで推移する。

▲	商店街（代表者）	・ガソリン価格の高騰は落ち着きそうだが、その他の物はじわじわと価格が上がっているため、客の生活が厳しくなることが懸念される。
▲	商店街（代表者）	・今年は冬季のイベントなどが予定されていないため、近隣住民の来街が減少するとみられる。さらに、これから寒冷期を迎えるため、このまま燃料の価格高騰が続くと、客の買い控えや外出控えが強まることも懸念される。
▲	商店街（代表者）	・物価高や光熱費の高騰が今後に向けての懸念材料となっている。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・インバウンドについては、中国人観光客が戻ってきているが、3か月程度では以前の水準まで回復しないとみられる。原子力発電所の処理水の問題で日中間がぎくしゃくしていることも懸念材料である。国内観光客については、コロナ禍後の初めての夏休みということもあって、活発な動きがみられたが、生活用品などが値上がりしているため、余暇に使う金がこれから少しずつ減っていき、旅行需要も落ち込むとみられる。また、正月を控えて客の節約志向が強まることも懸念される。
▲	一般小売店（経営者）	・エネルギー価格の高騰に加えて、増税への不安が高まっていることから、今後の景気は厳しくなっていく。
▲	百貨店（売場主任）	・物価高騰に加えて、この夏の猛暑の影響で食料品の価格が高騰しており、今後の販売量に影響が出てくる懸念される。
▲	スーパー（店長）	・物価高の影響で客の買い控えが進み、買物の際も価格重視になることが懸念される。
▲	スーパー（店長）	・物価上昇に加えて、電気料金やガソリン価格の高騰に歯止めが掛からないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	スーパー（企画担当）	・買上客数は前年を上回って推移しているものの、物価上昇に対する生活防衛意識の高まりから、買上点数が引き続き減少傾向で推移しており、先行きの消費動向を楽観できない状況にある。
▲	スーパー（役員）	・食品の値上げラッシュから1年が経過すること、燃料価格の上昇が続いていることから、今後、客の節約志向が強まる懸念される。そのため、景気が良くなるとは考えにくい。
▲	スーパー（従業員）	・値上げの動きが収まりそうにないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・観光やイベントによる集客増で売上は好調に推移しているが、物価高や燃料費の高騰などにより家計の負担が増えていることから、夏休み以降も好調なまま推移するとは考えにくい。
▲	コンビニ（店長）	・商品が値上がりしている割に、客単価が上がってこないことから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・新型車効果が徐々に薄れ、客の購買意欲が落ち込むことが懸念される。
▲	住関連専門店（役員）	・レジャーや旅行に金が使われると日用品の消費が抑制される傾向があることから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・各種原材料や経費の値上げに加えて、当地の賃金水準が思うほど上がっていないことなどから、今後、消費動向に陰りが出てくることを懸念している。
▲	スナック（経営者）	・年末にかけて少しでも景気が上向くことを期待しているが、今後2～3か月では景気は変わらない。
▲	観光型ホテル（スタッフ）	・依然として先行きの宿泊予約が入りにくい状況が続いている。宿泊予約は8月がピークであり、これから宿泊単価や客室稼働の落ち込む時期となるため、今後に向けて、明るい材料はみられない。
▲	旅行代理店（従業員）	・夏季繁忙期を終えることから、今後の観光需要は下向くことになる。今年は国内観光客の需要喚起策もないことから、個人客の伸びは余り期待できない。ただし、半導体工場の関連工事が9月から始まることから、関係者の動きが活発になることを期待している。
▲	旅行代理店（従業員）	・人件費や燃料価格の高騰により、ホテルやタクシー、貸切バスの価格上昇が続いており、旅行代金も全体的に高騰している。見積価格を確認した上で成約に至らないケースも出てきているが、今のところは現状を理解してもらい成約するケースも多い。ただし、このまま価格上昇が続いた場合には、計りしれない影響が出てくることになる。

	▲	タクシー運転手	・夏の季節行事が一段落し、これから通常の生活に戻るようになるため、今後のタクシー需要の低下は避けられない。
	▲	通信会社（エリア担当）	・通信キャリアの方針が変わるような見通しがないことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・人手不足、人件費高騰、物価高、原油価格高騰の影響が大きく、これらをどうにかしない限り、景気が上向くとは考えられない。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・ツアーが減少傾向にある。季節的にも徐々に減っていく時期であるため、今後の景気はやや悪くなる。
	×	衣料品専門店（店長）	・秋物の時期となることで、客の需要が高まり、単価も上がることになるが、衣料品の値上げに対する抵抗感が強いので、価格バランスが難しい。しばらくは我慢の状態が続くことになる。
企業 動向 関連	◎	通信業（営業担当）	・今後しばらくは人流の回復に伴って、景況感の改善が続くことになる。さらに、経済循環によって、幅広い業種に効果が生じることになり、道内景況感が一層上向くことになる。
(北海道)	○	農林水産業（経営者）	・りんごの収穫及び出荷の最盛期となるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・都市部を中心に建設投資が旺盛なことに加えて、インバウンドの入込が好調なこと、イベントの再開が相次いでいることから、今後も景気は良いまま推移する。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・北海道ではしっかりとした建設需要がみられることから、今後の景気はやや良くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・販売量が1割近く減少している現在の状況が、当面続くとみられる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今年3月に商品の内容量を少なくするとともに、単価やリベートなどを見直した。その結果、販売量が前年比マイナス30～40%で推移する状態が続いていることから、今後も横ばいでの推移となる。
	□	建設業（経営者）	・観光やサービス業などの景気が良く、建設業もフル稼働の状態が続いている。ただし、人手不足の影響がこれからどの程度出てくるかははっきりと読めない。また、10月を過ぎると、農業基盤整備工事において、工程、原価の両面で天候不順の影響が大きくなるという不確定要素もある。
	□	建設業（役員）	・このまま安定した天候が続けば、工期遅延のおそれもなく、予定どおりの完工高が見込まれる。一方、人手不足と建設コストの上昇から収益は一層厳しくなる見通しであり、今後に向けて、利益の上積み確保が課題となる。
	□	輸送業（従業員）	・今後も商品の値上げが続くため、値上げ前の駆け込み需要は見込めるが、値上げ後の反動減も見込まれるため、全体的には前年と横ばい若しくは若干の落ち込みで推移することになる。
	□	金融業（従業員）	・物価高が財からサービスへと拡大することで、消費者物価の上昇が続いており、個人消費の下押し要因となっている。また、円安による資源価格の高騰が企業収益に与える影響も懸念される。さらに、原子力発電所の処理水の海洋放出によって、中国が日本産水産物の輸入を全面停止した影響が出てくることに加えて、中国人観光客にも悪影響が生じることを懸念している。
	□	広告代理店（従業員）	・多くの企業は仕入価格の上昇に対応するため、値上げしており、それが結果的に物価、賃金の上昇に結び付くことになる。
	□	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人材確保が難しい状況はしばらく変わらないため、今後も景気は変わらない。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・人口減少や少子高齢化の影響に加えて、地球温暖化、カーボンニュートラルへの対応などもあり、今後の景気が良くなるような要素が見当たらない。
	▲	建設業（従業員）	・建設費の高騰やそれに伴う技術者の取り合いは今後も続くことになる。建設業界は現状混乱気味であり、落ち着くには消費者の収入アップなど、経済の好循環を待つ必要があるようだ。
	▲	輸送業（支店長）	・水産物の輸出はすぐには復活しないとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。

	▲	司法書士	・原子力発電所の処理水の海洋放出により、水産物の輸出や国内消費に影響が出てくること懸念される。また、9～10月にかけて食料品などの値上げも予定されている。これらのことから、今後の景気回復は望めず、むしろ景気は悪くなるとみられる。
	▲	司法書士	・今後、社会情勢が良い方向に変わる見込みは薄い。ガソリンに変わるエネルギーの開発や原子力発電所の再稼働などを政府や自治体が率先して行わない限り、今後も景気は緩やかに下向くことになる。
	▲	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・大企業は物件を抱えて忙しいものの、中小企業は補助金などの制度を多く利用しているなど、市場が2極化している。さらに、最近では再開発の一部で見直しなどを発表する動きもみられ、これからの再開発に影響が出てくることも懸念される。
	×	—	—
雇用 関連	◎	—	—
	○	—	—
(北海道)	□	人材派遣会社（社員）	・秋に向けてイベント系の人材ニーズが高まるとみられるほか、飲食などのサービス業のニーズも増加傾向で推移することになる。飲食、サービスにおいては、採用してもすぐに辞めてしまうことも多いため、慢性的な人手不足状況が続くことになり、今後も入替需要が続くことになる。中途採用ニーズも、企業の業績拡大意欲が継続するとみられることから、採用意欲の高い状態が続くことになる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・中小企業や個人商店などにおいて、徐々にではあるが、人材確保が難しくなっている。さらに、食料品や雑貨類など、日々の生活に直結するあらゆる商品の物価が上昇していることも影響している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・介護や建設など、人手不足が顕著な業界の求人も減少していることから、現在の求人数の減少傾向はしばらく続きそうである。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・低調な状態が続いているが、今が底であり、これ以上悪くなることは考えにくい。
	□	職業安定所（職員）	・原材料費、光熱費、燃料費の高騰により、日用品の値上げが続いている一方で、賃上げが物価上昇に追いついておらず、実質賃金が目減りしていることから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・原油価格や原材料価格の高騰など、事業環境の悪化を招く要因は多いものの、有効求職者数が12か月連続で減少したほか、新規求職者も3か月ぶりに減少している。一方、業況堅調な事業所からの新規求人数が引き続きコンスタントに公開されている。これらのことから、今後も景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・当地における月間有効求人数は4か月連続で前年を下回っている。ただ、産業や業種によってその度合いは異なっている。また、今後の経済活動や消費行動の状況によっては先を見通せない状態となることも懸念される。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・外国人観光客が増え始め、観光業、宿泊業、飲食業などへの学生のエントリーや内定の動きも回復しているが、道内において以前のようなインバウンド需要が見込めるのか、半信半疑の状態にある。学生自身も景気が上向いているのか確信を持っていない状況にある。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・物価が下がるような兆しがないことから、今後の景気は良くならない。
	×	—	—